

# SHIENアカデミーPress

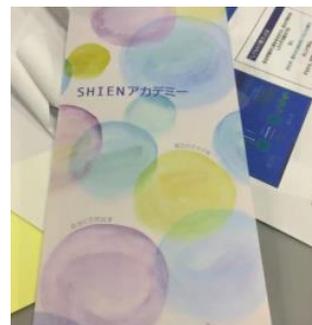
## Vol.2 設立記念フォーラム開催号

梅雨に入ってはっきりしない天気が続きます。皆様いかがお過ごしですか。

SHIENアカデミー静岡は5月16日に一般社団法人としての初開催となる「設立記念フォーラム」を開催。

今後も継続して公開フォーラムを開催していく計画です。

## SHIEN相談会を通して 今までになかった “気づき”の瞬間を初体験！



去る、5月16日、SHIENアカデミー静岡設立記念フォーラムを開催。浜松を中心に33名の方にお集まりいただき、SHIEN学の講演とSHIEN相談会を体験していただきました。ご参集いただいた皆様、ありがとうございました！

続いてプロフェッショナル・コーチでもある井原くみ子さんがファシリテータを務めるSHIEN相談会！ 3人ずつのグループに分かれて「してあげる／してもらう」を交換するワークショップを初体験し、これまでになかった気づきを得た方が多かったようです。

フォーラムでは開会の挨拶に引き続き、牧之原市の西原市長(当法人理事)から設立記念の祝辞をいただきました。その後、SHIEN学提唱者である館岡先生の基調講演。SHIEN学の原理から、働き方の改革、組織変容への応用まで幅広く説明がありました。

SHIENアカデミーでは今後もSHIEN学を広める講演会、フォーラム等を開催していく予定です。

●あなたもSHIEN学アドバイザー・マスターを目指しませんか？●

養成講座  
開催予定



2015年度 静岡開催：

第1回：6月20日、21日 <開催済み>

第2回：9月19日、20日

第3回：12月19日、20日

第4回：3月 (未定)

札幌開催 (予定)：

第1回：7月4日、5日

第2回：9月12日、13日

第3回：12月5日、6日

一般社団法人SHIENアカデミー静岡

TEL/FAX 053-434-9776 [shien@shien-academy.jp](mailto:shien@shien-academy.jp)

<http://www.shien-academy.jp>

<https://www.facebook.com/shien.academy>

## 「牧之原市とSHIEN学」 西原牧之原市長よりメッセージ

牧之原市では、昨年度から職員研修のプログラムにSHIEN学を取り入れています。職員は、市民の様々な要望や意見に耳を傾けて市民サービスを提供しています。

条例や要項を作って税金を使ってサービスを行うわけですから、権限もあるのでどちらかと言うと支援する側にいます。

しかし、少子高齢化社会に突入し、限られた財源の中でやり繰りしながら、より多くの市民の幸せを実現させるには、様々な分野で我慢してもらったり協力してもらったりと、市民から支援してもらう事が重要です。

支援してもらえる能力を高めよう！ そう職員に話をしてSHIENの学びをこれからも深め広げていきます！



牧之原市とSHIEN学の関係収録したインタビュー動画をSHIENアカデミーホームページで公開しています。

<http://www.shien-academy.jp/>

※メインメニュー「私とSHIEN」からご覧ください。

## SHIEN学×コラボシリーズ

### 第1回 SHIEN学×チェンジ・ザ・ドリーム

SHIEN学は現在、社会的に起こりつつあるムーブメントと親和性の高い科学です。5月2日には札幌にてSHIEN学とチェンジ・ザ・ドリームとのコラボ企画が開催されました。

チェンジ・ザ・ドリームとは、現代を生きる私達が未来の7世代先に向けて約束する、環境的に持続可能で、社会的に公正で、精神的にも充足した生き方の実現に向けた一歩を踏み出すためのプログラム。ビデオプログラムや対話を通じ参加者一人ひとりが深く考え、自分なりの答えを見つけるきっかけを提供する場を提供します。

SHIEN学とチェンジ・ザ・ドリームは様々な共通点があります。思い込みというパラダイムが私達の日々の行動に影響していることに気づき、物質偏重の時代から自然の在り方に還っていく本質的なメッセージと、対話を通じたつながりを通じ社会に働きかけて行こうという目的をもっている点です。



前半のチェンジ・ザ・ドリームのプログラムに続き、後半は館岡先生から、SHIEN学だから更に発展できる可能性も含めた基本原理の入門編のお話がありました。これまでの時代の変遷を振り返り、合理性や効率性の追求から個別化に進んだ社会(リザルトパラダイム)を見つめること。それによってもたらされた発展と、それだけでは限界があることへの気づき、そして、これからは重なりが無かった関係から重なりを生み出すことで、予定調和や効率を超えた解決が無数にあること(プロセスパラダイム)を、事例を交えて紐解いていきました。

企画をしていただいたみなさん、ありがとうございました。(文責:田絵子)